

5月18日(月)	
13:30~15:00	「化学プラントの事故から学ぶこれからの安全管理」
	東京工業大学 中村 昌允 氏 2011 年から化学プラントで起きた重大事故の背景には、現場力の低下がある。「ルール順守の徹底」「リスクアセスメント」「変更管理」の重要性が指摘されるが、技術力は改善工夫を行い、トラブルを解決することによって身につく。しかし、昨今は設備の新增設がなく、自動化が進んでおり、「リスク感性」を身に付ける機会が格段に少なくなった。これからの安全管理は、このような「人」の変化を踏まえて、人と機械との調和、システムの構築などの課題をどのように取り組んでいくかが問われる。重大事故防止に焦点をおいた「リスクベースの安全管理」を一緒に考えてみたい。
15:15~16:45	「安全管理活動におけるヒューマンファクターズ」 ーヒューマンエラー低減に向けたマネジメントー低減に向けたマネジメントー 顧客、社会の安心を得るという視点からの活動へ
	慶應義塾大学 岡田 有策 氏 安全管理上のトラブルを引き起こすヒューマンエラーを防止するための仕組み、すなわちヒューマンエラー・マネジメント・システムを 確立することは、現在の企業・組織における重要な課題の一つである。そのためには、組織におけるヒューマンエラーに関わる安全管理活動に関する理解・意識の状態を把握し、その状態の改善を図ること で、組織における安全に対する風土・文化を醸成させることが、様々な安全管理活動の実質を高めることになる。ここでは、現在いくつかの企業で実践しているヒューマンエラー・マネジメント活動の基本的考え方及び実例について紹介する。
17:00~18:00	親 睦 会
5月19日(火)	
9:15~10:45	「ヒューマンファクターツールを活用した従業員の“安全力”の向上」
	JR東日本研究開発センター 楠神 健 氏 現場の安全力向上を目的に活用しているヒューマンファクターツールを紹介する。具体的には、他箇所が発生した事象から自区所の教訓抽出を支援する『他山の石』置換え支援ツール、東日本大震災における避難誘導の分析およびそれに基づく臨機応変な対応能力を高めるための『異常時イメージトレーニング法』、現場の安全に役立つ情報の収集・共有化を促進するための情報バンク『安全ポータル』などについて紹介する。
11:00~12:30	「独立研究所でのOSHMSを活用した安全管理の取り組み事例」
	住友化学株式会社 木田 泰孝 氏 弊事業所は、2005年に独立研究所としては全国で始めてJISHA 方式適格 OSHMS 認定を取得し、開所以来25年以上に渡り、社員休業無災害を継続している。研究業務では、少量多品種の化学物質を取り扱う、新規実験や作業変更が多い、一人作業が多い、作業の標準化が容易でない非定常作業が多いなどの危険要因が存在する。これらの安全衛生上のリスクを低減し、安全を確保するための仕組みや工夫について具体的な事例を紹介する。
12:30~13:30	休 憩
13:30~15:00	「建設現場の安全管理への取り組みに関する活動事例」
	鹿島建設株式会社 須藤 英明 氏 建設業は国土整備の根幹を担う産業分野の一つである。ダム・トンネル・発電所・上下水道施設・新幹線や高速道路網・高層ビル等は、社会の発展と利便性向上に大きく貢献している。近年はこうした大型構造物の維持補修や延命化の必要性も高まり、地球の自然にも優しい円熟した社会資本施設の整備が、少子高齢化とも相俟ってますます大切な時代を迎えている。加えて、先般の東日本大震災からの復興や、国土の防災・減災・耐災の観点からも、建設業の果たすべき役割はきわめて大きい。しかし建設業を取り巻く環境、とりわけ「仕事の安全」には、他産業に比べ多くのリスクが顕在的あるいは潜在的に存在する。こうした情勢に鑑み、建設仕事における安全上のリスクを少しでも回避するための現場の安全管理実務の工夫や努力について、いくつかの事例を紹介したい。
15:15~16:45	「航空会社における安全管理の最新動向」
	全日本空輸株式会社 田中 龍郎 氏 航空会社においては 2006 年度より「安全管理システム(SMS)」を導入し、事故の未然防止活動を行ってきた。2014 年度より「航空安全プログラム(SSP)」が導入され、レギュレーターとサービスペロバイダーの役割を明確にし、また2015 年度より「変更管理」の概念を導入している。このような航空界の安全管理の最新動向を紹介すると共に、お客様に「安全」のみならず「安心」を提供する取組についても考える。